

1. <施策の概要>

基本理念	快適な暮らしを支える充実した居住環境のまちづくり	統括課	事業部 都市整備課
基本方針	基盤整備(その他)		
施策名	都市計画	関連課	
方針・目標等	◆公共交通の利便性向上。 ◆計画的な都市環境の整備。		
実施内容	◆公共交通機関利便性向上に係る要望活動。 ◆地域コミュニティバスの実証運行。 ◆建築物耐震改修促進による居住環境の向上。		

2. <指標の設定>

重点	指標名	単位	他団体比較		算式・引用等			
			団体名	実績/年度				
①	くるりんバス年間乗降客数	名						
②	くるりんバス乗車密度	名/便			始点から終点まで平均して常時バスに乗車している人数			
③	くるりんバス住居カバー率	戸						
④								
⑤								
			H20(実績)	H21(実績)	H22(実績)	H23(実績)	H24(試算)	H25(試算)
①	目標		85,535	89,189	87,549	88,110	88,110	88,110
	実績		76,351	76,637	74,503	72,110		
②	目標		5	5	5	5	5	5
	実績		4.33	4.39	4.15	4.09		
③	目標		100	100	100	100	100	100
	実績		96.8	97.7	97.8	97.8		
④	目標							
	実績							
⑤	目標							
	実績							

3-1. <指標から読み取れる成果と課題>

<ul style="list-style-type: none"> ・くるりんバス利用者数は平成21年度をピークに減少傾向である ・乗車密度からは、民間の路線バスが到底参入出来る収支を見込めない事が伺えるが、逆に一回の乗車距離が5.4kmと、比較的近距離の移動に使われ、地域の足としての役割を果たしている事が伺える。 ・バス住居カバー率が高い数値で推移しているものの、利用客数の増加には結びついてない。

3-2. <住民ニーズ等を踏まえた課題・他自治体の取り組みから学べる点>

<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年12月に、精華町地域公共交通会議を設置し、地域の実情に即したバス等の輸送サービスの実現のため、住民のバス交通へのニーズの解析や、コミュニティバスの定義付けを行い、運行ルートや運行ダイヤの改正の検討を行っている。

4-1. <施策を構成する事業>

重点	部門 /事業名 /種別/決算書説明頁	事業費(人件費含む)/事業費のみ/事業費一財 <単位:千円>					
		H20(実績)	H21(実績)	H22(実績)	H23(実績)	H24(予算)	H25(試算)
1	都市整備課	-	30,381	33,443	35,059	36,219	36,719
	コミュニティバス実証運行事業	25,957	28,378	27,645	27,340	28,500	29,000
	一般事業 197	-	15,956	16,786	17,842	28,500	29,000
2	都市整備課	-	7,438	11,040	7,076	9,728	9,728
	建築物耐震改修促進事業	956	112	2,052	528	3,180	3,180
	一般事業 199	-	28	463	132	795	795
3	都市整備課	-	1,774	2,661	3,111	9,581	3,364
	都市計画総務事務費	701	578	852	847	7,317	1,100
	一般事業 195	-	305	652	660	6,215	1,100
4	都市整備課	-	1,698	1,862	1,925	1,944	1,944
	土地利用規制対策事業	70	100	53	51	70	70
	一般事業 197	-	43	7	0	24	70
5	都市整備課	-	2,197	1,999	2,093	2,093	2,094
	交通網整備に係る一般経費	227	194	190	219	219	220
	一般事業 197	-	194	190	219	219	220
6	都市整備課	-	-	-	7,296	-	-
	建築物耐震改修促進事業(繰越明許)	-	-	-	2,700	-	-
	一般事業 199	-	-	-	0	-	-
7							
8							
9							
10							

4-2. <施策を構成する事業の成果と課題>

・平成17年より、精華町のコミュニティバス「精華くるりんバス」の運行を開始して以来、利用客数の累計が50万人を達成した。感謝祭として無料乗車日を二日間設け、同時に乗車された方を対象にアンケート調査を実施した。

・都市計画マスタープランの掲げる目標等の大半は、学研都市整備とリンクした事項が多く、達成率を地域別に見ると学研開発の遅れる北部地域の達成率が極端に低いが、マスタープランの目標年度が平成27年であること、プラン策定時の予測よりも地域整備のスピードが鈍化していることを考慮すれば、概ね達成されていると考えられる。

5. <施策の今後の方向性>

・くるりんバスについては、地域公共交通会議により実証運行の評価をしたうえで、精華町内のバス運行計画(素案)を策定する必要がある。

・都市計画マスタープランについては、町総合計画の改正時に検証し、平成27年に改正をする予定である。